令和５年度　自己評価表　（報告）

愛媛県立北宇和高等学校

学校番号（43）

教育方針	教育基本法に基づき、人格の完成を目指し平和的な国家社会の有為な形成者として必要な資質を養い、国際的視野を持った心身ともに健康な国民を育成する。	重点目標	豊かな人間力（徳・知・体）を育む教育の実践 きみだけの北辰（ポラリス）をつかみ、きみだけの魅来を描こう

域　領	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	平常日における家庭学習時間を１日平均120分以上確保させる。 A:120分以上　B100分以上　C：90分以上　D70分以上　E:60分以下	C	○１学期 101分（97分） ○２学期 78分（99分）＊（　）：昨年度	○教科で適切な課題を出し、しっかりとした評価と事後指導をすることで、より良い学習態度を育成する。 ○自主生活ノートに「学習時間」を記録させ、自己の振り返りを促す。 ○面接により、進路意識を向上させ、学習意欲を高めるとともに、効果的な学習方法について指導する。 ○公営塾の利用を呼びかけ、日々の学習習慣の定着を図る。
		各学期、担任との１回以上の個人面談を実施し、家庭学習の在り方や進路等についてのこまめな指導を行う。	A	○毎学期の初めに、面談週間を設けて、学習や進路・学校生活に関する指導や助言を行っている。	○来年度も今年度と同様に、各学期初めに面談週間を設け、生徒の学習状況を把握し、進路指導に努める。
	教科指導の充実	ICT機器を利用した授業法等の自己研修・相互研修に努め、一人一台端末を生かした、分かる授業･伸ばす授業の研究を行う。	B	○1学期末の授業評価ではほとんどの教科・科目で4以上の評価が出ている。落ち着いた雰囲気で授業もできている。 ○各教室にプロジェクターが設置され、ICT機器の活用も増え、操作技術も高まっている。 ○研究授業では一人一台端末を積極的に利用し、相互評価することで授業改善に努めている。	○習熟度別や少人数による授業を効果的に取り入れ、きめ細かい授業が行えるようにする。 ○授業研修を行い、指導方法や評価法の研究をする。 ○基礎学力の定着が必要な生徒に対して、個別指導を行う。 ○ICT機器を効果的に活用し、生徒の学習意欲を高める。
		基礎学力の定着を図るために、学年団と連携し、「学びのすすめ」を効果的に実施するとともに、公営塾の利用を勧める。	B	○「学びのすすめ」にはまじめに取り組めている。生徒自身にも、学力効果につながったという意識がある。	○生徒の学習進度に合わせた教材を検討し、理解度を高めることで学習意欲を高める。 ○クラス全体で、集中して取り組むよう指導する。
		図書・研修課と連携を取りながら、年４回以上の職員研修・年４時間以上の授業研修を行い自己研修の推進と指導力の充実を図る。	A	○校内研修会で研修会参加報告を行っている。 ○研究授業後の授業研究では、相互評価をしあうことで分かりやすい授業や指導力向上へつながるよう取り組めている。	○相互授業参観、校内研究授業を継続して実施。充実した研修となるよう工夫する。 ○学校訪問研修等、研修の案内を確実に行い、できる限り多くの研修に参加できるようにする。
生徒指導	基本的生活習慣の定着	・明るいあいさつ100%	B	○毎月、身だしなみ指導を実施した。 ○あいさつについては、教職員が率先して行うとともに、風紀委員の生徒が週に一度、校門前であいさつ運動を行った。 また、生徒会役員の生徒が自発的に、朝のあいさつ活動を実施した。	○身だしなみについて、更に規定の見直しを行っている。高校生としての身だしなみやマナーについて、生徒自身の意識高揚を図るため全教職員があらゆる機会を通して指導にあたる。 ○生徒会・委員会等が中心となって、あいさつ運動を継続的に行い、生徒自らが自発的にあいさつできる環境作りに努める。
		・皆勤率65% A:65%以上 B:64～60% C:59～55% D:54～50% E:50%未満	E	○皆勤率（２学期末現在） １年生　27.7%（47.6） ２年生　38.2%（57.5） ３年生　40.0%（57.1） 全体　35.3%（54.2） ＊（　）：昨年度	○規則正しい生活習慣を身に付けさせ家庭との連絡を密にし、生徒自身が意識を高められるよう支援する。
		・交通安全意識を高め、交通事故0件	B	○交通事故　1件（１） ＊（　）：昨年度 ○年５回、教員、生徒交通安全委員による街頭指導を実施した。 ○毎学期、車体検査及び施錠調査を実施した。 ○全校集会で、マナー向上の啓発活動を実施した。	○教員による街頭指導や交通安全委員や生徒会による交通安全啓発運動をさらに充実させ、交通事故０件を目指し、生徒が事故の加害者、被害者にならないよう啓発に努める。 ○車体検査や施錠率調査を継続することで、安全に対する意識を高める。
		・ヘルメット着用率100% A:100% B:95% C:90% D:85% E:80%以下	B	○自転車通学生のヘルメット着用は定着した。	○通学時以外でも着用するよう効果的な指導の継続を図る。 ○教員も率先して着用するよう心掛ける。
	学校生活の充実	・生徒会・学校行事満足度100% A:100% B:95% C:90% D:85% E:80%	C	○満足度調査 鬼北歩行　96.6%（97.6） 野球応援　75.7% 体育祭　89.7%（100） 文化祭　98.6%（96.4） ＊（　）：昨年度	○生徒や地域の実態に即した学校行事の内容を検討し、効果的な指導の継続を図る。
		・部活動加入率95%	A	○部活動加入率 運動部　60.5%（56.1） 文化部　35.3%（40.0） 全体　95.8%（96.1） ＊（　）：昨年度	○中学校との合同練習等を行い、部活動の活性化に向けた取組を実践する。 ○運動部においては合同練習会（トレーニング・メンタル強化）等を実施し、意識を高める。
		・県総体出場６０人以上 ・四国、全国大会出場を目指す	A	○県総体出場人数 87人（45人） ○四国大会出場 14人（７人） ○全国大会出場 2人（２人） ＊（　）：昨年度	○本校の現状に応じた部の精選を行い、各部の強化、充実を図る。 ○教職員の共通理解・共通実践を図るとともに、生徒が活動しやすい状況を構築し、能力を発揮できる部活動への入部率を高め、活性化を図る。
進路指導	進学指導の充実	進学決定率100%を目指す。 A:100%　B95%　C90%　D80%　E70%以下	A	進学決定率100%（国公立大学8名、私立大学13名、私立短期大学３名、専門学校23名）	○キャリアパスポート『北辰キャリア』を積極的に活用し、個に応じた指導を行う。 ○進学や就職に関する情報を生徒自身がＳＮＳやＨＰ等から収集し、進路選択の一助となるよう指導する。 ○「進路だより」の内容を再検討して、時期ごとに適切な進路情報を 提供する。 ○「進路の手引き」の内容を検討し、進路学習に有効な資料となるように改善を図る。 ○「ホームルーム活動」、「総合的な探究の時間」及び「学習合宿」等を活用して、進路意識の高揚を図る。 ○夢ナビを活用して、いろいろな大学の講義を視聴し進路探究をさせる。 ○進路資料室の資料の配置を改善して、より利用しやすい環境を作る。 ○2年生3学期には進路目標を持たせ、個別指導を徹底し、一人一人の個性に応じた進路指導を推進する。
	就職指導の充実	就職内定率100%を目指す。 A:100%　B95%　C90%　D80%　E70%以下	A	就職内定率100%（県内就職者16名、県外就職者22名、うち公務員1名）	○キャリアパスポート『北辰キャリア』を積極的に活用し、個に応じた指導を行う。 ○各学年に応じた望ましい勤労観と職業観を育み、自らの進路選択に必要な能力や態度を身に付けさせる。 ○鬼北町役場と連携して、地元企業合同説明会を1・2学年対象に実施する。 ○就職課外（３年生の１学期）の内容を充実させ、就職活動の基礎知識を身に付けさせる。
業務改善	適切な勤務時間	校務支援システムの活用を推進し、教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。会議の精選等を行い、業務の効率化を推進する。	B	○会議や行事の精選により、業務の効率化を図ることができた。 ○勤務時間外の勤務時間が月80時間を超える教職員が毎月数名おり、さらに、業務の効率化を図る必要がある。	○勤務時間の管理を校務支援システムの活用により行う。また、適切な休憩時間の確保、業務の効率化、会議や行事の精選を行う。また、部活動や校務の効率化を図り、勤務時間外勤務の適正化を図る。
	職場環境の整備	健康管理医による健康相談を定期的に実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	○ 各種健康診断、ストレスチェック、学校医による講話を行ったり、健康相談により、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図った。	○健康相談を定期的に実施し、さらに、ストレスチェックやアンケートを通して、職場環境改善策を実施し、安心安全な職場づくりに尽力する。　○環境を整え、報告・連絡・相談を徹底し、それぞれの業務内容を理解し、協力体制をとる。
その他	人権・同和教育の充実	差別を無くす行動力を育てる学習内容をさらに充実させるとともに、保護者・地域との連携を強化できるよう、教職員が共通の意識をもって取り組む。	B	○人権だよりは予定した8回の発行ができた。 ○ホームルーム活動の事前学習会を実施し、学年での意識統一ができた。 ○映画会やデートDV出前講座など行事の実施ができなかった。 ○交流会など人権委員会の校外での活動が少人数にとどまり、広がりを作ることができなかった。	○ホームルーム活動の事前学習会を充実させ、担任の先生の一助になるように努める。 ○年間行事計画に映画会やデートDV出前講座を組み込んでもらい、命や人権の大切さについて学ぶ機会を増やす。 ○職員会議で出張報告を行い、学んだことを教職員に伝達していく。 ○人権委員の校外での学びの機会を充実させ、人権集会等で全校生徒に広めていく。
	教育相談の充実	他者感覚の視点に立ち、教育相談の充実に努め、生徒を中心としたメンタル面のケアに努める。	B	○感染対策のため、十分な面談の時間が確保できたとは言い難いが、小さな悩みでも気軽に相談できる状況ができたことは前進だと思う　○悩みに関するアンケート等の過去データを再解析し、アンケート結果への新しいアプローチ法を提示できたことは収穫だった。	○スクールライフアドバイザー及び保健室の機能の充実に努め、問題を抱えた生徒や保護者がより気軽に相談できる体制の構築を工夫する。　○「悩みに関するアンケート」を年３回実施し、より効果的にデータを活用するための啓発を行う。 ○今年度もスクールライフアドバイザーの活躍を中心に、不登校を克服できたことは成果であった。このプラスの面をより生かすため来年度も進んで環境整備と啓発を進めていく必要性を強く感じている。
	安全・危機管理の充実	防災避難訓練等を通して、緊急時に的確な判断で自助・共助できる生徒の育成を目指す。	B	○１学期に消防署指導の下、火災発生に対する防災対避訓練を行い、生徒の安全意識の高揚を図った。 ○２学期にシェイクアウトえひめを予告なしで実施した。地震時の初期対応について学び、防災意識が向上した。	○いつ発生するか分からない災害等に対して、生徒・教職員が、最善で迅速な判断・行動がとれるよう意識し、防災訓練を行う。
	地域と連携した学習の推進	小学校との連携学習や開放講座を35回以上実施。学校・行政・地域との更なる連携の強化。A:35回以上　B：30回　C:25回　D：20回　E：20回未満	A	○今年度24回の連携学習、中学生体験入学（未来留学含む）、各種イベント参加、プロジェクト学習での外部交流などに参加した。時期が集中することが無いよう、工夫していきたい。 ○外部講師の活用等では、様々な県の事業を活用して実施することができた。	○休日・時間外のイベント参加の教員の処遇改善のため、生産と販売の分業化を図るとともに、部活動等との協力や支援、区分等を模索したい。 ○この評価項目が「地域と連携した学習の推進」となっているが、来年度は「農業科における、地域と連携した学習の推進」としたいと思います。
	保護者や地域との情報交換の推進	ＰＴＡ総会の出席率及び委任状回収率95%以上を目指す。また、保護者懇談会の保護者出席率100%を目指す。出席率A:100%　B:95%　C:90%　D:85%　E80%以下	B	○ＰＴＡ総会の出席率及び委任状回収率は、92.7%であった。 ○１学期及び２学期に保護者懇談会を実施した。出席率99.6%であった。 懇談日時を保護者の都合に合わせるなどして、出席を促した。	○担任を通じて、積極的に保護者に呼びかけ、出席率及び委任状回収率95%以上を目指す。 ○懇談内容の工夫や保護者が参加しやすい日程や時程を整える。

＊ 評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。